

米原歴史文化街道

米原市の歴史・文化財を歩く

133

石田三成敗走ルートをさぐる②

—東草野谷の伝承—

司馬遼太郎原作の映画「関ヶ原」がこの夏公開されるなど、まだまだ続く石田三成ブーム。三回に分けて、関ヶ原合戦直後の石田三成の敗走ルートをたどっています。

敗走ルートの推定 —東草野谷へ—

伊吹山中には、美濃と近江を結ぶ主要な峠道だけでも一本ありました。やはり伊吹山中に隠れ逃れ、いずれかの峠道で谷々を越えて古橋に向かうのが敗走ルートとつぼく、これまで小説やドラマで描かれてきました。しかし、北近江は三成の領国です。乱戦のさなか、早々と北国脇往還を関ヶ原から春照まで走り抜けた三成は、ここからは、姉川に沿って北上し、石田三成研究者の田附清子氏は推定します。春照からの街道筋は平野部となり、領国とはいえ敗軍の将。村々が連なり身を隠す場所もありません。

田附氏は、「東浅井郡志 第二巻」(一九七二)記載の三成探索、敗走、就捕の項から地名を拾い、地図に落として、現在の道路で確認されました。実際、三成が伊吹山中の一本の峠道いづれかで越えたとしても、現在、車では春日美東(岐阜県揖斐川町)から上板並(米原市)／当時東

東草野谷の伝承

東草野の曲谷には、「石田ヶ洞」とよばれる炭焼き窯跡があります。「三成戦場を通れ、本社裏道より字ムカイラに至り、炭焼き小屋に隠れ、炭焼某の綴衣を着し居たり、去りて後三成と聞き、里人ここを称して、今尚石田ヶ洞という」(曲谷「白山神社由緒調査書」)。三成が東草野谷にひそかに現れたのは一七日頃であるといえます。よく説かれる、新穂峠経由で東草野谷の最上流甲津原に出るルートは、地図で確認してもかなりの迂回路となり、甲津原から下るにしても、曲谷まで約六キロメートルもある難所石峠を越えなければなりません。ここはやはり、春照から姉川をさかのぼったことにします。しかしなぜ曲谷なのでしょう。二つ手前の吉槻からは七曲峠が上草野に抜けています。実は曲谷には、秀吉の母大政所の出生地との伝承があります。詳細は省

きますが、白山神社拜殿脇の石塔群のなかに大政所の石仏を祀る石の祠もあります。実際、本能寺の変で長浜城が攻められたとき、大政所は北政所(秀吉の妻)とともに、曲谷の八畳岩で匿われ、美濃広瀬に落ちていきます。そんな所縁が三成をここに招いたのかもしれませんが。

さらに東草野谷は、美濃へ抜ける間道として敗走者を匿ってきました。古くは、壬申の乱で七人の武人たちが逃げ落ち、粟津で木曾義仲軍が敗北した際、書記官の覚明が曲谷に逃れて石臼作りを伝えました。本願寺顕如・教如は甲津原の行徳寺で村人の慰労を受け、村には両上人の名を冠した顕教踊りがいまも伝わっています。東草野は、三成を匿った「炭焼某」をはじめ、伝統的に敗者が身を潜められる穏やかな谷なのです。

(歴史文化財保護課)



▲石田ヶ洞



▲大政所の石の祠